

福島町町内会とのタウンミーティング

日 時 令和4年10月9日（日）13時30分～

会 場 福島町公民館

参加人数 30人

1) 開会

2) 市長説明

○はじめに

・3連休の中日に大変いろいろとご多用の中、ご出席をいただいたことに御礼を申し上げます。そして、このたびの大雨で被災された皆様方にお見舞いを申し上げたいと思います。

・今から、皆様方からいただいた質問を踏まえ、8月4日の状況、そして今後の対策に関してご説明をさせていただきます。その後、何かご意見やご質問等があればお受けいたします。

○被害状況について

・8月4日の朝、午前5時に土砂災害警戒情報が発令をされました。市内で多くの田んぼや畑が冠水をし、土砂の流入がございました。鍋谷川に15か所頭首工がありますのが全部壊れました。

・イノシシの柵が倒れ、頭首工が壊れたことで田んぼ等に水が行かなくなり、ポンプを川の中に入れて、今は水を供給しています。史跡名勝も大変な被害を受けました。遣水観音堂に行く道はまだ復旧しておらず、七ツ滝、蟹淵に行く道もいわゆる土石流が起きました。林道もまだ不通という状況が続いています。

・市内全域で123件の床上・床下浸水がありました。福島町では罹災証明を出させていたのが45件、被災された事業所が1件ありました。そして、農地・農業施設でこちらの

地域では約5ヘクタールの田んぼに水がつかまりました。

○8月4日当日の状況

・平成30年7月、今から4年前にも市内に避難指示を出しました。そのときは、5時51分に大雨警報が発表され、約5時間後に土砂災害警戒情報が発表されました。これまでは約5時間後に土砂災害警戒情報が発表されていましたが、8月4日は50分後に土砂災害警戒情報が発表された、まさに大変な大雨でした。

・8月20日には20分後に土砂災害警戒情報が発表され、恐らく8月4日の雨がまだ土砂中に残っていたことが予想され、短時間で土砂災害警戒情報が発表されました。

・時間雨量でどれぐらいの雨が降ったのかですが、平成30年7月は、2時間で23ミリや44ミリでした。8月4日は4時から5時の1時間の間に86ミリという猛烈な雨が降りました。10時から12時の約2時間では90ミリの雨が降りました。

・8月4日の当日、金沢气象台からは当初午前中で雨が小康状態になるだろうという予報でしたが、日本海側上空でどんどん雲が新しく湧き、夕方近くまで雨が降り続け総雨量で388ミリという大変な雨でした。

・我々市役所では、朝6時30分に部局長以上を招集し災害警戒体制会議を開き、鍋谷町と寺畠町に避難指示を発令し、和気小学校に避難所を開設しました。その後、引き続き雨が降り続けたことを受け、市内全域に自主避難を発令し、市内に順次避難所を設営していききました。

○市役所の対応について

・皆様方から市役所は当日どんなことをしていたのか、とご質問がありましたので、少しだけ触れさせていただきます。例えば避難指示の発令や、自主避難の呼びかけを町会長や町内会長さんにご連絡をするという仕事や、避難所を開設する準備もしていました。

・のみバスを運行するかどうかの判断もあります。また、被災された方の相談窓口も設置をする必要がありますし、翌日からですがボランティアセンターを立ち上げる準備も始めています。そして、要配慮者といひまして、なかなか避難するのに時間を要したり、お一人では避難できない方々に、現在の状況をご連絡したり、問合せの受け付けも行っていました。

・上下水道が止まってしまうと二次被害が起きますので、上下水道を確保できるように点

検も行い、電気が止まってしまうと全く生活ができないことから、電気をどうしていくか。住民だけでなく、事業所もあります。観光客がいらっしゃる場合もありますので、ホテルや旅館等々にも連絡を行っておりました。

- ・時間軸でご説明しますと、6時30分に対策会議を開催をし、避難指示を発表しました。その後、防災行政無線、ホームページ、ケーブルテレビ、それから民間やNHKの放送で情報を流し、広報車を市内に走らせ、町会長や町内会長さんに電話やメールで現在の状況をお知らせしました。

- ・対策会議は6時30分を皮切りに、11時以後4回開催し、夕方には雨が下水道に流れ込んだこともあり、下水道が流れにくくなったため、市民の皆さん方に夕方節水をお願いをさせていただいた。そして、20時45分に土砂災害警戒情報が解除になりましたが、避難所には何名かの方々が避難されておられましたので、翌日に避難指示も解除させていただいた。

- ・消防本部では、ドローンを使って被害状況の調査を行い、避難できない方のご支援、安否確認、また当日、落雷によって2件の火災があり消防車が出動をいたしました。寺島町では車が水没した連絡を受けて、ボートで救助にも行っています。また、土のう作成も消防本部に手伝っていただきました。

○8月4日以降の対応について

- ・翌日からは、床上・床下浸水をされた方のためのポンプの貸出しや、消毒用の消毒液やポンプも用意をしました。そして、色々なお問い合わせに対してワンストップで対応できる窓口の開設もしました。それから、被災された方々へのボランティアの受付も始め、市内にボランティアセンターを2件開設しました。多くの方々が被災され大量の災害ごみが出ます。美化センターに持って行っていかれるにはいろいろお手間もあるだろうと、市内3か所にごみの臨時集積所も設けました。

- ・土砂崩れがあったところでさらに二次被害が起きないように手当も始め、また被害がどれくらい出ているのか調査もし始めました。そして、被災された方々に我々がどんな施策をしているのか、またお困りの方がどこに相談しに行けばいいのかが分かるような書類を作らせていただきホームページにも掲載し、罹災証明を取られた方には直接お渡しすることもしました。馳知事や岡田大臣にもお越しいただいて当地の被害を見ていただき、一日も早い復興、復旧にご尽力をいただけるよう依頼をいたしました。

- ・8月4日の大雨を受けまして、9月1日からの市議会当日に、大雨に対する事業、施策

を立案し、議会開会日当日にご承認をいただきました。皆さん方のご理解もいただきながら、今鋭意進めているところでございまして、総額5億9,300万円の事業費を見させていただいています。

○福島しらすぎの里について

・福島しらすぎの里というのは、平成10年3月から分譲の受付を開始いたしております。この場所には西川が流れていることもあり、当地の根上町では10年確率、一日当たりの雨量で120.9ミリの雨が降っても被害が及ばないように、調整池を設けさせていただいています。

・これまで大雨によって2度被害を受けられております。1回目が平成12年9月10日で、床下浸水がありました。これを受けて4号、6号の調整池の一部をかさ上げし、1号調整池に排水ポンプを設置しております。それから、福島保育園の敷地に排水ポンプを増設しました。

・2回目が平成25年7月25日で、このときも床下浸水の被害が出ています。これを受けて、西川との合流部の堆積土砂の除去、これ以後、毎年のように堆積土砂の除去もさせていただきました。令和2年に、西川・熊田川改修促進期成同盟会を設立し、西川と熊田川が手取川に合流しているんですが、河口部で合流しているということもあって、手取川の水が増えると、手取川の水が西川、熊田川にウオーターバックが懸念をされることから、樋門をつけようと今測量設計が始まっています。

・門をつけるだけではなく、西川の流域面積を広げようと設計の着手が令和2年から始まっています。西川の流域面積を、現在は12メートルですが、20メートルまで広げようという工事を今考えています。ただ、これには土地を提供していただかなければならないため、皆さん方のご協力とご理解が必要なんです。このようなことを行っていき50年に一度の雨でも対応できるようにしようとしています。

・ただ、この工事は大変時間がかかる。やはり大規模な工事であることや、土地をご協力いただかなければならないこともあり、能美市のほうで独自に水害対策もしていこうと考えています。申し遅れましたが、樋門の設置は国の工事になり、流域面積を広げるのは県の工事になります。能美市で独自の水害対策をしていこうと考えていまして、まずは堆積土砂の除去を引き続き県の協力をいただきながらやっていきます。

・福島保育園の敷地に調整池を新たに造ります。それから、3号調整池の横の空き地にも

新しく調整池を造ります。西川の横に花壇がありますが、花壇と花壇の間に隙間があり今回そこから大量に水が流れ込んだのではないかとということであり、花壇の間を埋めようと予定をしています。

・福島第一橋付近の溢水対策で、西川にかかっている橋の中でこの橋が一番低いんです。この橋に水が大量にぶつかり、それが溢水したのではないかと聞いていまして、この橋にぶつかって溢水しないような対策を施す予定をしています。2号から6号調整池のかさ上げで、全体的に四方に囲いがあるんですが、低い箇所がある。その低い箇所を一番高いところまで全部合わせる工事も計画しています。

・1号調整池の排水ポンプの増設をし、旧福島保育園敷地の排水ポンプも増設をします。2台新しいポンプを増設します。それにより50年に一度の大雨にも対応できるように、市独自としてもやっつけよう考えています。

・福島グランパークができたことによって今回の被害があったのではないかとのお尋ねもありました。福島グランパークを造るときには、独自で調整池を造りなさいと法律で決まっていまして、各企業さんはその法律に沿った調整池を造っていらっしゃいます。

○避難所について

・今回、根上総合文化会館を避難所に設定したんですが、周囲に水がついたことから、避難所まで行きづらかったというお声も聞いています。福島町から少し距離もあることも受けて、今福島グランパークに進出した企業さんに避難所として使わせてもらえないか依頼をしております。恐らくご協力いただけるのではないかと考えております。

・要配慮者の方へのご対応ですが、市としても電話や直接訪問をして避難の呼びかけをさせていただいておりますし、我々だけでは手が行き届かない部分もあるものですから、今後は町内会や町会、自主防災組織の皆様方と連携をしながら、要配慮者の皆さん方にも安全、安心に避難をしていただく、あるいはお過ごしいただけるようにしていきたいと考えています。

○情報発信について

・当日いろいろと情報を流したとお伝えしましたが、聞こえなかった、伝わらなかったというお声も聞いています。これは、仰られるとおりの部分がありまして、ほとんどのご家庭には防災行政無線で我々はお伝えしていますが、防災行政無線というのは部屋にいなか

れば聞こえない。外出していたらまず聞こえないわけですね。大量の情報を流したら全部確認することも難しい、記録が残らないのでどんな放送が流れたかを確認できないということもあると思います。

・防災行政無線の多重化を進めています。まずは、皆さんのスマートフォンにLINE等を使って情報を流す準備を今始めています。一部防災行政無線が聞こえないエリアがありますので、機械を最新のものに切り換えていきます。屋外のスピーカーも新しいものにしていきます。流れた放送を固定電話で確認ができるようにもします。そして、ケーブルテレビや能美市のホームページでもこういった情報を確認できるよう全部切り換えていきます。LINEでは災害情報だけではなくて、例えば能美市の観光地情報やそのほかの生活に必要な情報を流すように今切り換えを行っている途中でありまして、全て完成するにはもう1年ぐらいかかりますが、できるだけ早く完成させようと作業を既に始めています。

○これからの対策について

・まさに今回、過去に経験したことのない大雨を教訓に、我々能美市としても自然災害の防災、減災に向けて、私を本部長とする本部の体制や事業や施策の見直しをもう一回行っています。災害発生時の緊急対応、本当にこれは申し訳ないのですが、我々にとっても初めての経験でした。今回の大雨を経験したことで、こんなこともしないといけない、あんなこともする必要があったんだ、ということをもう一回見直して対応していきたいと思っています。

・冒頭申し上げたように、我々だけでは手の届かないところもございます。町会、町内会や市民お一人お一人の皆様方とも一緒になって、能美市が安全、安心だと実感していただけるように、取り組んでいきたいと考えています。何度も申し上げますが、改めて皆さん方にお見舞いを申し上げ、そして市単独ではなかなか財源の問題もあり、なし得ません。国や県のご協力もいただきながら、一日も早い復興、復旧、防災、減災に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3) 質疑応答

質問 1

【出席者】

・しらさぎの中で被害があったのは、45件が床上・床下浸水だと思います。床下浸水というのは基礎の内側に水が1ミリでも入れば床下浸水だという定義になっておりますが、新しい工法では基礎が高いと相当な深さにならないと床下浸水としてカウントしてもらえない。そういった場合でもガレージの中にある物や、室外機などは雨水による被害をうけている。そういったものは今回の災害で被害に遭っていないとみなされているのか、それとも把握されてらっしゃるのか。

【市長】

・45件や123件という数字は、我々が罹災証明書を発行した件数でありまして、全容を把握していないのが正直なところです。

【出席者】

・罹災証明にかからない被害があることを念頭に置いて今後の対策をしていただきたいと思います。

質問 2

【出席者】

・市のLINEを作っているというのは、今あるものですか。
・いろいろな情報があると良いが、先に災害に関するものを具体的に進めて、早めに立ち上げることはできないでしょうか。

【市長】

・違います。全く新しいものを作ります。
・全体の仕組みを作るにはどうしても時間がかかります。色々なものを入れるの時間がかかるということではなく、基礎的な部分を作るのにどうしても時間がかかってしまうということなんです。ただ、もう既に始めております。

質問3

【出席者】

- ・国、県、市といろいろ動いてくれているが、福島町としては何か考えられているか。
- ・あまり伝わってないということも聞いているので、その辺どうなのか町のほうが心配なだ。

【市長】

- ・我々とする、福島町の皆さん方からいろいろご要望等をいただき、協力していただきながら進めています。
- ・福島町からもこういったことをしてほしいとか、こういう声がありますということを知りて対応はしているつもりでありますので、一体となってやっています。

質問4

【出席者】

- ・しらさぎで浸水したのは2回と言われたが、私どもが把握しているは5回です。

【井出市長】

- ・西川自体が溢水をしたのはおっしゃる5回なんです。ただ、我々が把握していたのは、この福島やしらさぎのことだけをお伝えしたつもりだったんですが、西川自体は確かに5回溢水しています。

【福島町出席者】

- ・2回ではないです。何回も家の中に水が入っています。私どもの実態が伝わっていなかったのかな、と補足させていただきました。

【井出市長】

- ・失礼しました。西川がこれまで5回溢水したことは聞いています。把握しています。

質問5

【出席者】

- ・川の拡幅工事は、早くてどれくらいになるのか。

【井出市長】

- ・県に一生懸命要望をしているが、10年から15年ぐらいはかかると思います。

【福島町出席者】

- ・それまで心配して暮らさなければいけない。夜も雨が降ると不安になって、車も移動しないといけない。いつ水がつくかも分からない、交代で寝たりということになる。

【井出市長】

- ・それも念頭に置いて短くするというのもやり、市として独自の対策もすることで、今回のような被害が出ないようにしたいと思っています。
- ・本当にできるだけ早くとしか、今のところはお説明できない。そういったご不安のお声も県、国に届けながら、一日も早くやってもらえるよう努力していきます。

質問6

【出席者】

- ・いろんな対策があると思うが、市独自で早めに行える対策というのはどの順番で行っていくのか。

【市長】

- ・西川の堆積土砂は来月ショベルカーが入ります。調整池は来年度末までに造り、護岸の花壇のかさ上げと第一橋の溢水対策と調整池のかさ上げは今年度末までにやります。ポンプの増設は来年度末までにやりますが、できるだけ早くやります。

【出席者】

・結局ポンプを造ったところで稼働していなければ排水ができないので、そのメンテナンスを定期的に、年に一、二回ぐらいはした方がよいと思う。今は1年に一回と聞いていますが、実際はメンテナンスがなくなって本番のときも全然稼働せず排水もしていない状態です。

・排水ポンプの排水先はどこを想定しているのか。結局雨が降っていると、排水先の西川もいっぱいになって排水できないのではないか。西川のほうが先に大きくなると、ポンプ先に造っても意味がないのではないか。

【市長】

・それはそうかもしれないが、こういった部分を増強させることによって、西川だけでなくほかのところに調整池も設けます。

・全く意味がないということはないと思います。おっしゃるとおりに、西川が広がっていかないと十分な機能はしないことは間違いないですが、やはり増設したほうが良いと考えている。

質問7

【出席者】

・避難場所ですが、先ほど企業さんにもお願いするとは言っていたが、緊急の話としては、しらさぎの人たちにとっては今現在では車の避難場所をセレモニーホールさんにもお願いしていて、車に関しては良いと思う。セレモニーホールさんを人が中まで避難できれば一番よい、タントより近いので、避難場所として市からお願いしてもらえないか。

【市長】

・分かりました。一回確認してみます。

質問8

【出席者】

・市のほうは一生懸命やってくれていて、時間がかかるのもよく分かった。福島町として

やっていくという形になると、町の上からきている水に関しても少しは考えないといけない。

・福島町の中でも水がつくところとつかないところがあると思っている。その中で、福島町の予算を共有しているのであれば、しらさぎに対して治水を何とかして欲しいと思っている。ローンを抱えている人もいる。雨が降るとトラウマになってるという人もいる。町会内でも、温度差があるのではないかと私は思っている。

・町と一つでくくられると、地理的な状況が違ふと思うので、一緒に町内会としてどうするという話では多分違ふと思う。ポンプを設置しても、誰が動かすのか。しらさぎとして対応するのならば、私は幾らでもやっていきたいと思っている。

【出席者】

・今の話で言うと、このグランパークの排水を50年確率で対策して、その排水は結局西川に流れている。調整池にたまった水は、結局西川に流される。

・市も分かっていると思うが、根本的には西川の下流から全部きれいに拡幅しないと、問題は片づかないということを知っていてほしい。それに対して、市としては自分たちのできることはやったという事ではなく、梯川のほうも国はやると言っていると思うが、西川もよろしくお願ひしたい。

【市長】

・分かりました。

質問9

【出席者】

・住民は皆さん不安に思っていて、また大雨が降ったときに床上・床下浸水が起きるんじゃないかと思っている。同じような雨が降ったときに、今回の検証はなかなか難しいと思うが、真ん中に調整池を2つ造ることによって、被害がどれぐらい軽減できるか計算や検証をして、また同じような雨量が降ったとしても、それができれば安心できるというそういう計算はないのか。真ん中に2つだけ造る以外でも、別の部分にも調整池を造って、理論的にこうすれば大丈夫だというものがあるって、調整池をこれだけ造りますというよう

なものがあると、非常に安心できると思うがどうか。

【井出市長】

・まず、今回の雨の量、降り方は、恐らく100年に一回ぐらいの雨の降り方だったのではないかと。時間86ミリというのは過去能美市ではないはずで。

・今回と同じような雨が降っても大丈夫な対策となると、西川の流域面積が広がらないと、そこまではいかないと思う。だから、能美市として今やれることは、50年に一回の場合でも耐えられるようにしようと、先ほど施策の説明をいたしました。

・最終的に安全だということになりますと、何度も申し上げますけれども、西川の流域面積が広がり樋門が設置されるまでは、能美市としてもいろんなことをさせていただくつもりでおります。

・土のうが不足していたのではないかとという声もお聞きしておりまして、土のうが必要なときに必要な量確保できるように対策も今考えています。そういったことで何か皆さんに安心・安全に感じていただけないかと、そんな思いをしています。

【福島町出席者】

・道路が全部浸水している状況で、土のうがあっても心配です。もう何をやっても水がつかないようにしてもらわないといけな。

【井出市長】

・おっしゃるとおり。ただ、それには先程申し上げたような施策を順次やっていかないと、皆さんの安全、安心にはつながらないということです。

【土木部長】

・手取川の西川、熊田川の河口部分で樋門を国が設置をしようとしております。今、設計が終わり、今年度から、環境を守るために代替水路の工事に着手をしています。それが終わりましたら上流側の熊田川の樋門を造り、下流の西川の樋門を造ります。これは10年以内に造ると聞いています。

・樋門ができることにより、手取川からのバックがなくなるのですが、国交省はポンプ車を持っています。市からポンプ車の応援等をいたしまして、強制的に排水できる形にはな

ってきます。西川の水も、今は溜まるばかりなんです、これを強制的に排水できる形にはなってくると思います。ただ、いずれにしましても樋門ができてからになります。

質問10

【出席者】

・今後、かさ上げ等が今年、年度内とか、それから調整池はもうちょっと時間かかるのかと思いますけど、工事に入るときにまた連絡いただきたい。やはり家のすぐそばで工事になるので、いろいろ準備をすることもあると思うの、事前に何か通知でもいいですから、連絡いただければと思っています。

【市長】

・皆さんに分かっていただけるように、何か一枚の表にして、こういうことを年度ごとに、月ごとにやっていきますとお知らせするようにします。全体が分かっていただけるようにします。

【出席者】

・8月4日、会社休んで自宅にいたもので、ずっと雨の状況を見ていました。1号調整池と1号橋。12時過ぎぐらいには完全にあふれていました。鍋谷川等とは違い濁流ではありませんでした。工業地帯等からこちら側へ流れてくる雨水がものすごく多かったです。

・旧西川の暗渠、セブン・イレブンのちょっと下手の付近ですが、そこと今の西川の横、第1調整池の角辺りで暗渠と一緒にいるんですが、それも溢れているにもかかわらず、高低差があるので、道路の向こう側工業地帯のほうから水がものすごい量が流れてきていました。その対策せずに、西川の手側にばかり調整池を造っても、片手落ちではないかと思う。

・西川の拡幅用に幅を取って、工業用地側に砂利を埋めてあるようなところがありますが、あそこを掘るだけでも調整池になって違うのではないかと。手側にばかり調整池を造ること考えていらっしゃるみたいですが、向こう側に造るという発想はないでしょうか。

【市長】

・今ほど申し上げたように、福島グランパーク内には50年に一回の雨に耐えられるような規定の調整池は造られているはずであります、ただ今おっしゃったようなことがあるのであれば、もう一回検証します。

質問11

【出席者】

・しらさぎの人たちと色々な対話をすることができ、その中から少しまとめさせていただいた。市長からの説明で今回の8月の豪雨災害が想定以上だったということも分かりましたし、各土地で甚大な被害があったことも説明ができた。それから、これまで想定できなかった豪雨災害ということも十分理解できた。それから、この能美市として豪雨災害の対策に一抹の不安はありましたけど、十二分な対策を盛り込んでいただけるということで安心できたとは思っている。

・まだ補足でお願いしないといけないことはあるにせよ、少なくともこういった説明と対策をしていただいているということは非常にありがたかった、とお礼を申し上げたいと思っている。

・福島町内、しらさぎの被害の状況のアンケート、回答意見をいただいて、直接心配事の苦情、雨が降るたびに寝れないと回答があった。温度差があるかもしれないが、雨の音を聞くともう寝れなくなっているのが今しらさぎの住民の本当の心理状態だと理解していただいた上で、班長に参加していただいて面談もさせていただいた。今説明していただいた重要な切実さも実感できたかと思っている。

・今回想定しなかった豪雨災害というのは、皆さん理解しているんですが町内会への不満が噴出してきている。町内会がしらさぎの災害復興への支援が、他人事じゃないかという声が多くの方々から出てきている。身近な町内会の役割と機能が見えてこない。町内会として復興支援でできることあったんじゃないか。しらさぎと福島の住民の町内会に期待していることが違うんじゃないかという声が聞こえている。

・一番期待するのは災害対応です。10年先と言われたら、10年間その思いをずっと私どもは繰り返していかないといけないのか。安心して安全に住めるように、住民のやはり命が第一です。市が動いていただいている状況のフィードバックが住民に十分にはなかった。それから、住民のほうから能美市への災害に関する要望も十分に伝わっていなかったと感

じた。

・町内会には言っているけど、私ども住民のほうにまでは全部伝わってきていないのではないかとすることが多くあると感じている

・福島工業団地を開発したときの住民説明会がなかったのではないかと。住みやすく安心して住める住宅地になるよう住民の意見を反映できる自治活動を持たないと駄目じゃないかと思っている。特に女性から顕著に出ているのは、不安なところには住みたくないということ。

・しらさが置かれている環境も含めて考えていただいて、色々な動きをしていただければ、みんな安心してこれからも住んでいこうと思える。これからの活動は、また国か県か分からないですが、それをやっていただくことと、それから自分たちでできること、2本の柱でしっかり取り組んでいくことで、安心してこれからも住める環境になると思いますので、そこも含めご検討いただければと思います。

【市長】

・福島グランパークもまだ半ばでございますので、今ほどのお話の中で十分な説明がなかったということは反省もし、定期的に皆さん方にお伝えするようにします。

・今日申し上げた水害対策の状況も、ペーパー等でお知らせするだけではなくて、今後どういう形で進んでいくのかも皆さん方に定期にお伝えするような、そんな時間も設けていきたいと思っております。

・今日タウンミーティングとしてやらせていただいておりますが、新型コロナウイルス感染症で大規模に人が集まることができないということから、カフェトークという形で少人数の皆さん方と直接お話しする機会も設けています。言っていただければ参りますので、おっしゃっていただければと思います。

質問12

【出席者】

・花壇のかさ上げですが、花壇の間に土のうとブルーシートが今してあります。将来的にはまだかさ上げをしていく予定があるのですか。

【市長】

・まずは花壇の間を埋めようと思っています。

【出席者】

・取りあえずの対策としてならいいと思うが、多分同じ状況になったら水が入ってくると思う。恐らく今回と一緒に条件であったら花壇よりも上まで来ていました。

・上流から止めないと、中で調整池を増やしても効果は薄いと思う。6号調整池のほうから入ってくる、上流から入ってくる量をできるだけ減少させないといけないと思います。県道のほうからずっと神社あたりまで坂になっていて、水がそこへ集まってくる。

【市長】

・調整池を造れる場所を今回選定して見てきたつもりだったんですが、この辺のことをもう少し状況を詳しく調べてみます。

質問13

【出席者】

・新しくこども園ができて間もない時期にこういうことがあった。こども園も床下浸水だったけれども、1か月乾燥、消毒に時間がかかったと聞いている。

・今回の水害に関して、保育園が民営化になったからといって、扱いは別に変わっていないんですね。

【市長】

・全く変わらない。

【出席者】

・こども園も被害があったので、能美市としてもコミュニケーションを取っていき、これから改善をしていくスタンスでおられると理解していいんですね。

【市長】

・それは間違いなくそうです。

【出席者】

・バスを市から出してもらえなかったという苦情があった。市にバスを依頼していたら、運転手さんがいないので対応できないと断られた。それで、親たちが自分たちで何人か手挙げて、個人的にやっていた。

【市長】

・分かりました、一度確認します。

質問14

【出席者】

・当日苦労したのがトイレなんです。どこもここも壊れてきて、水が使えないと言われた。トイレに行けない。それじゃあ、避難所まで行けるかといったら、冠水している状況で行けなかった。緊急性の高いこともあるので、近いところで安心できる避難所があれば一番いい。

【市長】

・まさに今回の教訓です。下水道が溢れる状態になるとは想像もしていませんでしたし、特に夕方になってお風呂等を使われるようになるとさらにパンクすることから、少し使用を緩めてくださいと放送でお伝えしたんです。

・身を寄せる避難だけではなく、今おっしゃられたみたいにトイレの問題やそのほか色々な課題もあろうと思いますから、そういったことも検証して、対応をしっかりとしていきます。

【出席者】

・トイレは市全体的に詰まったんですか。しらさぎだけではなくて。

【市長】

・市全体的に下水道がパンクしました。道路に水がついたことから、それが下水道へ流れ込むところもあり、能美市全体でなりました。

質問15

【出席者】

・保育園の横で砂利になっているのは、今何をしようとしているのか。川の拡幅工事ですか。

【産業交流部長】

・土地造成工事の一環で、今防草シートを張って、その上に敷砂利を施すそんな工事を進めております。河川の工事ではないです。

4) 閉会